

# 健診センターだより～Vol.2

おしえて！かわにし先生  
第2回  
Q&A  
不要不急



かわにし・のびひろ  
茨城県日立市出身、弘前大学医学部卒。医学博士。筑波学園病院健診センター長兼内視鏡室長。日本消化器内視鏡学会内視鏡認定専門医、日本内科学会認定内科医、日本消化器がん検診学会総合認定医、茨城県総合健診協会消化器検診研究委員会委員。66歳。

「何もないう、だから健診」

**A**

毎年秋に欠かさず健診を受けていたが、2年前は

中止しました。例年より忙しく、

診を続けてきたからでしょう。

「コロナ禍で「不要不急」という言葉が巷にあふれていました。

2年前の定年を機に、私は体操を心掛け、現在もベスト体重をキープしています。「毎日忙しく、健診や人間ドックに行く暇がない」という現役世代の方、「これ以上無理できるかどうか」の判断を健診に委ねてみてはいかがでしょうか。

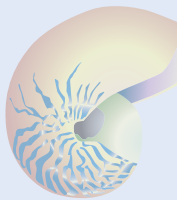
健診は決して不要ではありません。私が「不急ではあるな」と思ったからです。結局半年遅れで受診し、大腸がんが見つかりました。幸いがんは早期で大きさは1センチほど。陥凹型だったので腹腔鏡的外科手术を受け、半年後のCT検査では再発も転移もなく一安心でした。通常がん細胞は数年で増殖しますが、大

事に至らなかつたのは地道に健康に活かしてください。(了)

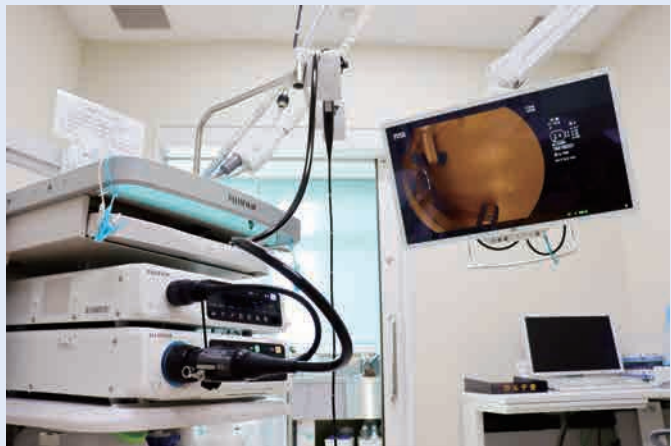
当センターの内視鏡検査では、国立がんセンターや筑波大学付属病院でも使われている「LASEREO7000システム」を導入しています。2波長のレーザー光線で4つの観察タイプを実現。微小な病変の観察をサポートでき、スクリーニングの精度やモニターの明るさも特徴です。当センターでは経口内視鏡検査で約5ミリの経鼻内視鏡を使っているため、飲み込む際の不快感も従来比で軽減。「検査はほとんどが約5分以内で終わります。『早期発見』とは、自覚症状がなくても検査を受け続けること」によって初めて可能となります」と川西医師。

今風には「エビデンスを基に、仕事を続けられるか、もうひと踏み張りできるかを判断する」のです。せっかくなのでお金の掛けるから、健診を生き方や人生の選択

前回、患者さんから「わざわざ高いお金を払って健診を受ける意味あるの？」という質問を受けた川西先生。「健診」は、病気がどうただけを知る「検診」と異なり自身の健康レベルを再確認し、生活改善のきっかけがつかれるという話をされました。毎年欠かさず健診を受けていた川西先生ですが、昨年の春、思わぬ出来事がありました。



## 内視鏡の紹介



各種健診・人間ドックのお申し込みはコチラ！

各種健診・人間ドックのお申し込みはコチラ！



申し込み・お問い合わせ

☎029(836)1983

筑波学園病院健診センター

(平日 13:00～17:00、土曜 8:30～12:00)

kenshin@gakuenhospital.or.jp